



1

### 講義の概要

- 目標
  - 自然環境と人間生活とのかかわりを理解できること
- 講義内容
  - 日本と世界の気候と暮らしの知恵
  - 都市・地球の植生環境と日本文化との関係性
  - 地形と自然災害及びその利用
  - .... それぞれ世界、日本、高知の特徴を示していきます。

(この講義は、暗記物ではありません。この世界があるんだということを知っていただけたら幸いです)

①,②: ガイダンス、地図学  
 ③～⑥: 気候  
 ⑦～⑬: 地形  
 ⑭: 水循環  
 ⑮: 植生  
 ⑯,⑰: 自然地理に関する演習

2

### 講義日程(自然地理学)

- 6/14(土) 3～5時間目
- 6/21(土) 3～5時間目
- 6/28(土) 3～5時間目
- 7/12(土) 3～5時間目
- 7/26(土) 3～5時間目

- 6/21(土) 5時間目はパソコン演習
- 7/12(土) 5時間目は地形図演習の予定

<演習について>

- 定規・電卓(スマホアプリでもOK)を持ってくるください。
- できるだけ、時間内に提出してください。

3

### 成績評価

- 自然地理に関するレポート(1～2個程度)
  - 詳細、提出方法は第15回目に渡す課題用紙に書いておきます。
- 講義内演習(レポート)
  - 講義途中で不定期的に出すこともあります。
- 出席(参考程度)....2/3以上の出席。

レポート評価に当たっては、  
**情報収集能力、データ分析力、問題解決力、文章作成力**  
 (レポート課題によって異なりますので、詳細は課題用紙を見てください)  
**「地理学的スキル」、「論理性」を特に重視**します。  
 上記の観点から見て、**地理学を理解したと思えないレポート**はダメです。

- 馬渕に対して、講義内の疑問や、地理学・地域研究に興味を持っている方の質問・アドバイスを来た学生は評価を上げます。
  - 馬渕が教室にいる間、のほか、メール(スライド9に書いてあります)でも受け付けます。
  - この積極さを求めます。

4

### 講義について注意事項①

- 基本的に、対面で行います。
- その日の講義資料は、その日の3コマ目に前の机の上に置いておきます。
- 講義を聞きにくる場合、**前の方に座った方がいい**かと思います。後ろに座るとホワイトボードの字が多分見えません。
- **講義途中の入退出はできるだけ控えてください。**
- **就活・部活による欠席は一切対応しません。**
- レポート提出は**締切り厳守**をお願いします。

5

5

### 講義について注意事項②

#### 出席について

- 出席したら、テーブルの一番前に「受講者リスト」(A4用紙)を置いておきますので、**該当するコマの学籍番号のところに「○」をつけてください。**
- **講義途中で「○」の個数と座席に座っている人の数とを照合することがあります。**もし、その際に数が合わなかったら、再度点呼による出席確認をすることがあります。
  - 点呼の際にいなかったら**厳罰に処します**
  - **レポートの個数や枚数を増やすことがあります**

とにかく正直に「○」をつけてください！

6

6

### 注意事項

- 自然地理学は、「自然現象の発生メカニズム」を把握することが求められます。つまり、理系的視点が必要です！！
- できるだけ、平易に話すことを心がけますが、話が難しくなる場面が多々出てくるのが予想されます。
- わからないところは、各自、参考書(第1回講義で紹介しています)で調べるなりしてください。
- 単位が楽にとれる、、といった理由で受講はしない方が身のためです。
- 自然地理学のレポートにおいて、「Open AI」の利活用については、特に**制限を設けません**。
  - 本科目は暗記科目ではなく、あなたの考え方を問うものなので。
- ただし、**他人のレポートの丸写しは厳禁**です。

7

7

### その他

#### <本講義に関する問い合わせ先>

- 出欠関係
  - 経済・マネジメント事務室(6F)
- 講義・レポート課題関係
  - 馬淵まで
  - [mabu39yasu58@outlook.jp](mailto:mabu39yasu58@outlook.jp)
  - 基本的に、馬淵にメールが届いたら1日以内に何らかの返信をします。もし返信が来なければ、届いていないということです。メアドを確認するか、秘書室まで連絡してください。

8

8

## 学問上の「地理学」

- ・ 自然科学・社会科学・人文科学の全領域に研究領域を持つ。
- ・ 文学部・理学部・教育学部・経済学部・工学部・農学部など、大学によって研究室が属する学部が異なる。

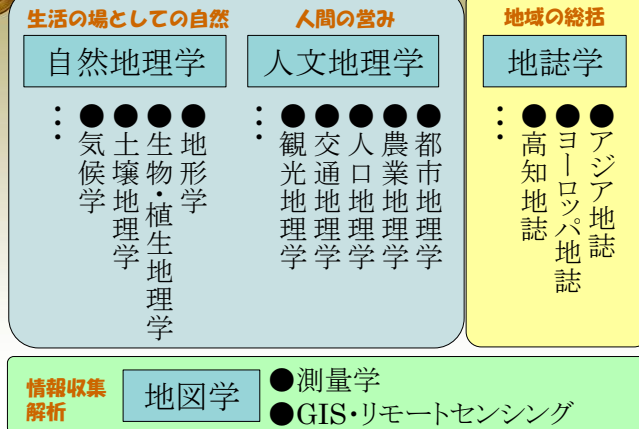
→地理学は、＜空間＞、＜地域＞という特有の見方でアプローチする学問・・・複合科学的な性質を持つ

→地上に存在するあらゆる事象には、＜空間＞、＜地域＞が伴うので、あらゆる事が地理学の対象となる

ミカンの栽培地域、カツオの漁場、仏教の信仰地域・・・

9

## 地理学の学問体系



10

## 地理的条件の分析科学としての地理学

- ・ **地理的条件の生成とメカニズム、及び、地理的条件間の関係**について分析し、その中から普遍的な原理を導き出す

⇒ 系統地理学

- ・ 地理的条件
  - ・ 位置・地形・気候・土壌・植生・資源などの自然条件
  - ・ 文化や社会組織などの人文・社会的条件
- ・ 分析対象となる地理的条件により体系化
  - ・ 自然地理学・・・都市のヒートアイランド問題、土砂災害etc
  - ・ 経済地理学・・・農業活動、企業活動と空間特性etc
  - ・ 政治地理学・・・地図上の相対的位置と政治との関係
  - ・ 文化地理学・・・地域文化の生成とあり方



11

## 場所(地域)の総合科学としての地理学

- ・ 場所に関する知識を整理・表現すると同時に、ある空間的範囲に居住する**人類集団が作り出してきた特徴(場所の個性)**を見だし、その場所の理解を深める

⇒ 地誌学

- ・ 地理的条件の複合性を構造的に把握して、“地域性”を明らかにする
  - ・ 人種や民族による人類学的形態
  - ・ 言語
  - ・ 衣食住のあり方
  - ・ 祈りの形態
  - ・ 社会の構造
  - ・ 人間の感性や行動形態



12

12

## 地理学の研究とは？

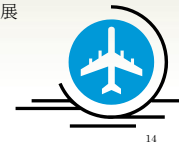
- 国内外のある特定の場所を対象に、
- 地域の政治、経済、産業、法制度、社会、文化、民俗などについて、
- 各種統計情報やフィールドワークなど社会・地域調査手法を駆使して明らかにし、
- 当該地域の地域性や諸問題に対する解を導出することを通して、
- 地域の幸福を創造していくことを目的とする。



13

## 地理学 (Geography)

- Geo(土地)-graphia(記述/描写する)
- 人類が生きていくためには食料が必要
  - どこにどのような食料があるのか？
  - その場所が図示できれば、本人以外でも訪問することができる → 地図
- 人類の行動空間の拡大→「場所」を整理・記述する必要
  - 絶対的な位置を決定
  - 場所に名前をつける
  - 文字だけでなく地図を使用して表現  
→ 測量学、地図学、地名学、地誌学、地域調査学の発展
- 現在  
高度情報化社会の到来→GPS、GISの発展
  - 情報の“価値”の高まり
  - 様々な意思決定に深くかかわる・・・地政学の発展



14

## 地理学発展の歴史

B.C.

近世

現代

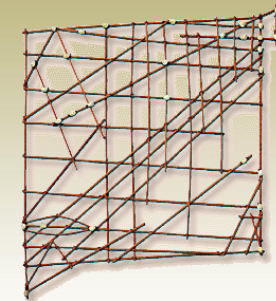
- 生存の手段
  - どこにどのような食物が生産できるか？ 場所は？  
(マーシャル諸島のスティックチャート)
- 植民地経営の効率的手段
  - その地域の自然的特性や人文的特性を知ること、植民地の経営戦略の立案や効果的運用を検討
- 地域問題解決するための手段
  - 地域問題の根本を探る
- 国家戦略を検討するための手段
  - どこにどのような資源があるか？  
また、その輸送手段は？
- ...



15

## 地図化の試み

- 1700年～1800年代
- 我々の身近なものから、位置を表現
- マーシャル諸島：貝殻とヤシの繊維を編んで島と航路や海流を表わした海図
  - 貝殻は「島」
  - 枝は海の「潮流」や「うねり」
  - 島から離れていく「うねり」は曲がった枝
  - 長い枝は島への正しい道



スティックチャート地図  
(日本水路協会より)



地図の作成・活用は人類が生み出した生存の知恵

2025/6/12

16

16

## 位置特定技術の進歩

より精度の高い地図作成に向けて

三角測量

衛星リモートセンシング技術

測鎖

GPS技術

17

17

## 地名の生成

- いつから「地名」が付与されたかは、地名学の永遠のテーマ
- 柳田(1936)の定義
  - 「要するに二人以上の人の間に共同に使用せらるる符号」
  - 人が山川原野に対して古来如何なる態度を以て臨んで居たか？
- 自然地名
  - 栲原、鏡川、仁井田(赤土の川が流れる田)、枝川(河川の合流点)
  - 梅ノ木谷、梅窪→梅「ウメ」・・・埋め
  - 桜谷→桜「サクラ」・・・裂く
- 人文・歴史地名
  - 行政地名・・・国分寺、内裏、丸の内、大野城市
  - 人間活動・・・四日市、呉服町、御坊、永国寺町、改田
  - 人名・・・道頓堀(大阪)、津野町(高知)、八重洲(東京)

付された地名からその土地の歩んできた歴史を垣間見ることができる

18

18

## 地域の記述

- 世界の叙述(13世紀末、マルコ・ポーロ)
  - アジア地域の概況、風俗、慣習、宮廷内の事情を記述
- Padron General(新大陸諸地方の地誌的報告)
  - 16世紀中頃、スペイン
  - 面積、気候、位置、河川などの自然地理
  - 集落の個数と人口、政治的關係、資源と生業などの人文地理
  - 報告を義務付け→新大陸の植民地形成政策の基礎的資料
- 風土記(奈良時代)
  - 地方の文化風土や地勢等を国ごとに記録編纂
  - 国郡郷の名、産物、土地の肥沃の状態、地名の起源、伝えられている旧聞異事
  - 地方統治の指針

地域を記述する＝地域を知ることは、  
その地域を治めるための効果的な手段

19

19

## 現地を訪問することの重要性

- マルコ・ポーロ「東方見聞録」の一節
- 「ジバングは、中国の東の海上1500マイルに浮かぶ独立した島国で、宮殿や民家は黄金でできているなど、財宝に溢れている」
- ・・・ただ、実際はご存じの通り「そうではない」部分もある
- ⇒日本には訪れておらず、中国で聞いた噂話として収録したもの
- 三国志烏丸鮮卑東夷伝の倭人の条(魏志倭人伝)
- 「帯方郡より倭に行くには、・・・また南、邪馬台国に至るのに水行十日・陸行一月。ここが女王の都するところで・・・」
- ・・・位置が特定できない⇒邪馬台国畿内説？九州説？存在した？
- ⇒三国志の作者陳寿が、伝え聞いた話を整理したもの

20

20



## 地域研究をやる人は必ず フィールドに入ってください

- 直接的に検討プロジェクトの解に迫れる、だけでなく、
- フィールドワークの面白さ
  - 「現地」に入り、様々な「体験」をすることで、意外な現実を目の当たりにすることで、問題の別の側面や深い本質に触れる経験を得る
  - 限界集落・・・何が「限界」なのか？ 実際の姿は？  
→ 実際にその現場に入り、「観察」する

実は、高齢者はずいぶん活動的であったりもす  
・・・この新たな発見  
⇒ 今後の地理学(地域)研究の深化につながる

- 自分の経験値の上昇
  - 地域住民の生きざまに触れる → 人間的に成長が期待
  - 当然、地域独特の「食」にも触れることができる → 趣味の多様化に繋がる？



21

21

## 場所の価値の高まり




ナビはもちろんのこと、  
店の情報だけでなく、予約も  
できれば、  
新たなビジネスチャンスも生  
まれる。

22


22

## 地理を知ることの重要性 (地域にかかる諸問題の解決)

### 地域活性化プロジェクトの検討



### 地域活性化プロジェクトの実施



### 特産品ビジネス エコツアー の実施

### 地域の状態を知る(地域調査法)

- 歴史調査
  - 既往文献、古文書、市町村史・・・
- 変遷調査
  - 地形図、地質図、航空写真・・・
- 統計調査
  - 国勢調査、家計調査、気象データ・・・
- 現状調査
  - ヒアリング調査、参与観察・・・

### 地理的分析


- 地域性のメカニズム分析
  - 地域の特徴量抽出(人口、産業、文化)
  - ステークホルダー分析
- ビジネスモデルの構築
- 地域社会への適応分析
  - フィールドワーク調査

⇒ 地理は地方自治の基礎情報

23

23

## 地理を知ることの重要性 (国家戦略の立案)



### 日本の石油輸入ルートとルート上の危機

- 国家の存立は**食料と天然資源**
- その2点をいかに安定的に・継続して収集できるか？
- 食料生産地・天然資源の分布は**限定的**
- 生産地が自国外となると、その**国家との関係性、輸送ルートの確保(外交戦略)**がカギとなるだけでなく、自国の産業政策(食糧安保等)にも影響を与える。

⇒ **地政学** (地理は政治の基礎情報)

24

24

## 自然環境と人類

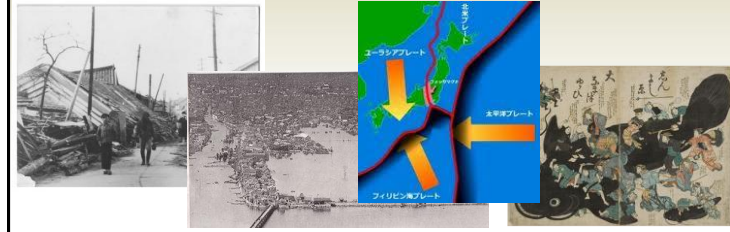
- これまで人類は、自然環境を利用して、文明を築き上げてきた。  
→ 農耕、都市建設、産業、余暇、、、
- 我々は自然から意識するしないに関わらず恩恵をうけると同時に、様々な災害も被っている。  
→ 地震、台風、大雨洪水、火山噴火、、、
- ⇒ 自然環境の「しくみ」を理解することで、更なる恩恵を受けられると同時に、災害も避けることが可能になる。



25

## 高知県で発生が予測される災害① 南海地震

- ほぼ、100年～150年周期で発生。前回は、1946年12月21日。次回は？
- プレート境界型地震
  - フィリピン海プレートとユーラシアプレートの境界で発生する・・・日本全体が地球のダイナミクスな動きの中に分布している！
- 地震の揺れによる直接的な被害、津波発生による被害  
→ 四万十町黒潮では34mもの津波高が予測されている！



26

## 高知県で発生が予測される災害② 土砂災害

- 高知県は、地盤がもろく、たびたび土砂災害・洪水被害が発生している。
  - 繁藤災害(昭和47年7月)、仁淀川災害(昭和50年)、、、
- 素因:比較的にもろい地盤(三波川変成帯、秩父帯)、開発行為(市街地化、針葉樹林化)等
- 誘因:短時間に大量の降雨現象



27

## 日本人はこれまで自然災害 と共存してきた

棚田

地すべり災害発生後、土壌が拡張され、栄養価にとんだ土壌が表面に露出



緑色片岩  
高知県嶺北地方でよくみられる。地中深くで形成。庭石として全国的に知られる

土佐漆喰と水切り瓦  
高知の高温多湿な気候に適した構造



温泉  
火山活動の副産物。古くから、湯治など大衆に利用

28

## 自然地理学研究の必要性①

- 高知県は、有史以来、大雨洪水、土砂災害、地震災害など自然災害が頻繁に発生している。

(ちなみに、7300年前の鹿児島県界カルデラの噴火の際には20cmもの降灰がみられた)

- これは、高知の地理的特性に大きく起因している。
  - プレートの沈み込み帯の近くに位置している
  - 中央構造線が位置している
  - 太平洋側に位置する
- 発生メカニズムが把握できたら、被害がかなり軽減される。



その場所の自然環境の特徴を把握すること

29

## 自然地理学研究の必要性②

- ヒトの日々の暮らしを取り巻く諸条件
    - 自然条件…気候、地形、地質、植生、水など
    - 人文・社会条件…政治、経済、社会、産業、交通など
  - 環境決定論…人間の生活様式は、その地域の自然環境によって決定づけられる
  - 環境可能論…自然環境は人間に機会を与える存在
- 自然環境は、人間の行動に強く影響を与えている。

高知におけるアイスクリン産業の成立要因

### 自然的条件

- 温暖な気候(消費地に近い)

### 人文・社会条件

- 他県ではお土産産業として殆ど残っておらず、オリジナリティがあった
- 需要に対する供給が存在



30

30

## 例えば…ショウガの立地特性

- ショウガの生産量…高知県は全国の5割を占める。
- なぜ、高知県がショウガの一大産地となっているか？

### 自然条件

- 気温条件
  - 10月後半まで日最高気温が25～30℃
  - 10月20日前後で、寒暖の差が大きい(約10度)
  - 11月後半まで気候が温暖である。
- 降水条件
  - 9月(ショウガ肥大期)の降水量が多い。
- 地形・土壌
  - 有機質に富んでいる
  - 水はけが良いこと

この2つの条件が高知に適している

### 人文条件

- 収益面
  - 種ショウガの購入の必要が無い
- ショウガの収穫量の変動への対応
  - 戸別に独自の技術を経験的に実施
  - 収穫量変動に対応
    - 病害虫対策
    - 土壌水分の確保
    - 連作障害への対策
- 輸入ショウガへの対策
- ショウガの需要

⇒ 人間活動の成立条件を考える場合、対象地の自然条件を理解することが不可欠

31

31

## 自然環境の特徴

多様性

空間性

関連性

時間性

階層性

地域性

- 5つの～性を認識することが、自然災害や環境問題の軽減につながるだけでなく、
- 高知が抱える諸問題(少子高齢化、過疎化等)の解を提供することが可能となる。

32

32



## 本講義での対象範囲

気候学

生態学

地形学

水文学

- なぜ、このような自然(気候、地形など)が生成されたか？、この自然の特徴は何か？という**地域の自然環境に対する理解**をベースに、
- 「**人が自然とどのように関わっているか**」を見ていく
- **地域の環境を地球スケールで見て**、身近な地域を相対化して理解する

33

33

## 参考文献

- 高橋日出男、小泉武栄:自然地理学概論(地理学基礎シリーズ2)、朝倉書店
- 杉谷隆、平井幸弘、松本淳:風景の中の自然地理、古今書院
- 松原彰子:自然地理学(第3版)、慶應義塾大学出版会



34

34